

第6回 松山市中心市賑わい再生社会実験専門部会 議事録

- 日 時：2016年3月22日（火） 14:00～15:30
- 場 所：松山アーバンデザインセンター1階
- 出席者：別紙出席者名簿参照

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

（開催挨拶、配布資料の確認、代理出席等委員紹介）

4. 議事

【部会長】

本日は、第6回社会実験専門部会になりますが、アーバンデザインセンターや市民の皆さんがみんなのひろばや多目的スペースを利用して様々な企画を一緒に続けてきており、それらに対して、事務局が様々な指標を設け、社会実験の効果として取りまとめています。前回までの社会実験においても効果等を各時点で共有してきましたが、本日は全体を通しての活動を振り返り、今後、どのようにみんなのひろば・多目的スペースを活用していくか、あるいは、発現している効果をどのように底上げしていくかについて議論いただければと思います。それでは、議事について事務局よりお願いします。

（1）前回の意見概要・結果報告

【事務局】

（資料説明 P.1-1～1-4）

【部会長】

前回意見とその対応についてご説明いただきました。前回の細かい指摘についても客観的にデータを集計していただけていますが、気づき等があれば、ご意見をお願いします。

本日、入口付近に松山市中心部の3D模型が完成し、展示されておられますが、新しいプロジェクトや松山市のビジョン等を重ね合わせ、プロジェクトの動きが見える状態にできるのではないかと思います。委員から現場で実際に携わっていただいた経験から気付いたことがあればお願いします。

【委員】

松山のまちをこうしたいという意見がメールや来訪などを通じて、お話を聞く機会が少しずつ出てきました。まだ、少数ですが、街に対する意見を届けに来られる方が現れるようになったことが大きな変化と感じています。

その方は、「これまでは、意見があっても、市役所などに行って伝えるような窓口がなかった。」と仰っていて、この施設をインターネットで知って、来訪されたとのことでした。小さなお子さんを抱っこされた子育て世代のお母さんで、今後もそういう方々の窓口になっていければと考えています。

【委員】

松山市さんが施策を出される際に実施する「パブコメ」はどれぐらい返ってきていますか。

【事務局】

それほど多くのコメントがあるわけではないが、JRなどの施設は異常に多く、180件ほどありました。それ以外は数件程度で、0件の場合もあります。

【委員】

JR 松山駅は、様々な事情もあるので、関心は高いと思いますが、むしろ少ない意見の方をUDCMがより吸い上げることが出来れば、市と住民をつなぐ機関として役割になってくるのではないかと思います。そうなれば、委員がおっしゃるように市民の意見を聴く窓口機能が広まり、様々な意見が出てくるのではないかと思います。

また、3D 模型に松山市の施策が見えるようにして、コメントをもらえるようにするのが非常に重要だと思います。月替わりもしくはシーズン毎くらいのペースで展示の内容を変えながら、意見を出してもらえるようにするとか、意見がきちんと伝わっていることを示すためにも、HPやUDCMのラジオ等で取り上げて、吸い上げていることをアピールすることも大事だと思います。

【事務局】

壁面に松山市のプロジェクトを展示しているので、それらとリンクする形で活用できればと思います。

【委員】

まちライブラリーの件については、いかがでしょうか。

【委員】

本や本棚を設置して以降について、ここでの利用者の動きについては、まだまだだと思います。周知活動の議論にも繋がるが、この場所に来て本を読んでいる人がほとんどで、まだ、本が借りられることが広く十分には伝わっていないことが課題だと感じています。告知等を十分に取組んで、本が借りられることを伝えられたらと思います。また、みんなのひろばに設置している pop

up library の方もよく利用されていて、まったく知らないひとから UDCM の受付の方に「本をもっていったいいですか」と問い合わせがあると聞いていますし、実際、本の出入りもよくあります。問い合わせもあるので、本にまつわる活動の認知と利用促進が進めば、利用はもっと伸びると感じています。

【委員】

ホームページでも書籍の紹介をされているということですかね。

【委員】

これは、リブライズ上で開設したブックスポットのページで、ネット上で UDCM の書籍リストが全て見えるようになっています。

【委員】

大規模なイベント等で訪れた際に、一度利用するとそれが広がると思うので、イベントと連動するともう少し効果があるのかなと思います。

(2) 社会実験の振り返り

【事務局】

(資料説明 P.2-1~2-4)

【委員】

みんなのひろば・多目的スペースの利用者数は毎月順調に増えているということなのか、それとも安定して維持しつつ推移しているのか。

【事務局】

ひろばの方は、天候や季節によって左右されますので、月によって変動があり、夏場の昼間は全く人がいない状況になることもあります。今のような季節だと子どもを中心に多くの方に利用していただいております、平日・休日もある程度利用されています。多目的スペースについては、2年目に入り、ひと周り増えた形で推移しておりまして、認知の広がりに伴い、利用者も増えているという状況です。

【委員】

みんなのひろばと多目的スペースの連動性として特徴的なものはあるのでしょうか。

【事務局】

ひろばについては、子ども連れの方が休憩に使われる場合が多く、多目的スペースの方にトイレがあることを知っている方は施設のトイレを利用したりしています。大きなイベントとして、土囊プールの際には、ひろばを遊びのスペースとして、多目的スペースを更衣室や休憩場所とし

て使うなどの連動した使い方がありました。

【委員】

うまく機能しながらやれているということですね。

【部会長】

商店街やまちづくり松山等と連携するプログラムをデザインする立場から見てご意見はありませんでしょうか。

【委員】

まだ、この場所がどういう場所で何がしたいのかが見えていないが、ただ、景色はすごく良いし、実際にこういった結果が出ているからいいのだと思います。まちのイベントとのコラボはいくつか取り組むこともできたので良いとは思いますが、やはり目的などがはっきりと浮かびあがってきていないので、商店街側としてどうすればよいのかという意見もあり、もったいないと感じている部分でもあります。

商店街としては、土曜夜市等のイベントの運営からアーケードの修繕までランニングコストは全て自費で負担しており、この場所と商店街とは、そもそもの意図も違うし、情報交換が足りなかったと感じています。

【委員】

商店街の立場からは、ここが何をやる場所で、何があるのかも分からないというのが正直なところで、商店街がイベントをする際にここと連携しようという発想がそもそもないというところはある。つまり、ひろばを使って何かをしようかという発想に商店街側がなっていないので、大きなイベントに関しては、連携してやることもあったが、まだまだ、商店街とこの場所が一緒になってやっていくという感覚にはなれていない実情がある。

【委員】

商店街や地元との連携に関して、全体を整理すると、中央商店街連合会・まちづくり松山・お城下まつやまなどがあり、各団体や各方面のメディア等においても、この場所の本当の意義が見えにくかったように思いますし、これはもったいないことだと感じます。

【委員】

まちづくりの活動拠点として、お城下まつやまにこの場所を使ってもらい、一緒に活動していくようなものはあまりなかったが、UDCMとしては、歴史文化研究会として、道後のまちあるき等の様々な活動面で連携することができたと認識しています。ただ、社会実験としてこの空間を使った活動はあまりできてなかったと思います。

【委員】

今までやってきている活動は、引き続き商店街が主体となってやっていただければよいと思うが、この場所としては、成功するかどうかわからない取組を実験的に試したり、商店街ができないことをする機能があると思いますし、商店街がここをどうつかっていいかわからないということは、問題だと思しますので、UDCM としてもこれからの重要な課題だと思います。

【委員】

これまで実施してきてイベントや過去の使用をこの場所で掲示したことはありますか。どのようなイベントを行ってきたかを展示することは大事で、こんなことができるんだと伝わり、理解してもらえるのに役立つ。趣味やサークル活動で利用している例もあるので、利用方法を分かり易く提示してあげるとよいかと思います。

【委員】

どういうイベントをやっているかについては、ここにいる人でも全部は分かっていないかとも思いますし、それを一覧にして提示することで、若い方やプログラムを立ち上げようとしている人たちの背中を押すことになるので、この専門部会で提示いただいている資料に情報をプラスして、この場所に提示していければよいかと思います。

(3) 効果検証

【事務局】

(資料説明 P.3-1～3-6)

【部会長】

事務局からは、北通り店舗の方々において、人通りや客層、イメージにポジティブな変化があったということ、他のエリアでもポジティブな意見は十分にあるものの、頭打ち感があり、まちなか全体への広がりが十分には、感じられないという印象でしたが、効果検証について何かご意見があればお願いします。

【委員】

初動期よりは好意的な意見をいただいているので、運営側からするとモチベーションが上がりますが、まだまだ周知が足りないことは認識していますし、引き続きどういう施設かを発信していきたいと考えています。社会実験を通じては、大きな事故等がなかったのがよかったと思います。

【委員】

立ち上げ当初から事故や犯罪抑止に対しては、照明をつける、つけないなど、かなり議論して現在の運営体制になったという経緯がありますし、前面に道路があるので事故防止のために、現在は、椅子を設置することで管理がうまくいっています。一方で、管理の負荷がかかっている面

もあるので、もうすこし効率的な方法もあるかもしれませんが、現時点では目配りも合わせて成果しているのではないかと感じます。

【委員】

事務局からの説明にもあったように近隣店舗や周辺住民にとっては、非常に効果があったと感じますが、課題として挙げられているまちなか全体への効果に対しては、それをこの場所、1箇所を求めるのはどうなのかということもあります。この近辺で効果があったのなら、このモデルが周辺にどんどん広がっていくと、そこにまた効果があるのではないかと考えられるため、そう考えると、ここが設置された効果は充分にあると考えられると思います。

それと商店街の情報発信がここではされていないが、それをどうするかという議論もあるかと思えます。商店街の情報は、これまでもいろいろな場所でなされてきていますが、その辺りの情報をこの場所としてどうするのか、収集・発信することによってまちなか全体への影響にも繋がるのではないかという印象もあります。

【委員】

UDCM とひろばの役割は、今までに無いまちなかの機能をつくるのが最初の主眼で、商店街の方々からは少し遠いところから出発しており、この場所も商店街に面していない場所に配置しているのですが、その結果、新しい人が加わり易かったと思いますが、逆に商店街との連携が遅れてしまった原因にもなっているかと思えます。今後、このような拠点を新しく作るのであれば、商店街に面したところで商店街が中心となって運営していき、現状のものとは役割を分けることでお互い回遊性が広がっていく可能性はあるかもしれないと思います。

現状のひろばに関しては、スペースに限りがあるので、大勢の人が全て入りきらないということもあり、なんでもかんでもやるのは難しいとは思いますが、新しい場所に作った場合、その場所にあったプログラムを作っていくなどやり方はでてくるのではないかと思います。

【委員】

これまで広報がうまく出来ていないという意見も常にあったが、パンフレット作成などによって近隣店舗や住民には、波及効果があったように思います。ただ、例えば、1か月ぶりに街なかに来る人にまで十分に情報が届いているかというところでもないように思いますし、初めて来た人が、ここで何をしているのかが分かるようにした方がよいのではないかと思います。

ただ、この施設が複合的な要素や役割を持っているので、1つの目的に絞った場所であれば、初めて来た人にもどういう場所かを伝えやすいが、そうではないので、伝え方が難しく、初めて来る人にもわかるデザイン的な情報発信があってもいいのかなど。トイレやおむつ替えスペースなどについて、ピクトグラム等で外からでも分かるような伝え方があるといい。近隣住民や頻繁に通行している人にとっては、子連れの人がたくさんいることで若い人が増えた印象などを持たれると思うが、「ひろばがあること」と「こんなことができる」の両方の認知が広がれば、商店街としても「便利に使おう」とか「自分たちもやろう」というふうに波及していくのではかと思えます。

【委員】

はじめての人が参加し易いという点においては、アーバンデザインスクールが毎年入れ替え制で、そのものを体現しているのですが、デザイン面でももう少し、ICT 等も活用しながら、デザインして、そこの効果を出して行くというのは大事なかなと思います。

【委員】

情報発信は常に課題というのは同感ですが、1つ気になっているのでは、周辺地域に対する認知度や目的の周知はここを拠点に波及しているということで知られていっているのですが、一方でまちなかに溶け込み過ぎた拠点になっていくと、近隣住民の方の利用は逆に減る可能性があるということです。難しいのですが、公園が日常のまちに溶け込むと毎日使わなくなるというのと同じで、やはり、この一つの機能として来街者に対しての情報発信を常に新しくしていくことは重要ではないかと思っています。

【委員】

非常に難しいですが、商店街の方々は、経営の視点からもそういった苦勞されているかと思えます。

【委員】

ここ最近の1年間で銀天街と大街道が繋がる部分の通行量は下がっているんですね。一番大きな影響は東急ハンズで、アエル松山のオープンなどによって両端は増えているんですが、中央の部分が減っている状況にあります。

この場所が何を目的に、どうするのかという話になると、批判ではないですが費用対効果で考えると何をしているんだ？という印象です。逆にいうと、行政や学生が入って実験も含めてやっていることは異空間でいい環境だしやるべきですが、その前提があるから誰も手をつけようとせず意見も出てこない。続けてやっていくことはいいことだと思いますが、そこは、商店街のためというように考えず、地域のためというように考えるべきかと思っています。

私の子どもも含めてここで遊ぶかという、円光寺の方が子供にとっては楽しいですし、それは、正直なところ、子どもが選択するものですし、この場所は、実験することもたくさんあって大変なのは分かるし、ブレてしまうのも事実。商店街も同じで、昼の顔・夜の顔・商売の顔・何かをする場所が常にある。かつ、大街道と比較して通路幅が違う・歴史が違う・交通環境が違う・電車や駐車場事情などいろいろ悩みながらやっているの、それに対してここはどうするのかと話していないのがもったいないと感じます。どっちが先とか上とか全くなくて、本来同じ中になければならないのに、違う視点での話をしている方が何人かいるのは残念だなと思います。

【委員】

全体的な考え方として、商店街は休むスペースは絶対に必要で、行政がこの場所を休憩スペースだとすれば、商店街に来たお客さんの休憩スペースとして位置づけることもできる。

商店街にもベンチを設置していますが、銀天街が幅も狭く、ベンチをなくしてほしいとの意見もあります。

【委員】

まちなか全体にどういう機能がどういう形であるのがいいのかを考えるときに、ここは暫定的に試している部分もあるので、様々な面があるが、どういう街にしたいのかと繋げてここの施設を考えることが重要なと思います。

(4) 総括

【事務局】

(資料説明 P.4-1)

【部会長】

総括の説明を聞いて、また全体を通じて、各委員お一人ずつご意見を伺居ればと思います。

【委員】

広報が不十分であることについて、本日も取材に来られていますが、広報まつやまに名刺程度の大きさでも構わないので、この場所の紹介を適宜載せることができれば、インターネット等でPRするよりも効果があるかと思います。来年度が3年度目になりますので、ここだけでまちなか全体に効果があったというのは難しいので、この場所でよい影響があるのならば、他にも展開させていくべきかと思います。

【委員】

松山市の既存の広報媒体がありますので、もうひと押し、ふた押しして戴ければと思います。

【委員】

商店街のためにここがあるのでなく、地域のためにここがあるという考え方の方が、視野が広がって良いと思います。松山市の市税でこの場所を運営しているので、特別商店街のためにやるという考え方は語弊があるように感じるので、広く地域・市民のためということで良いのではないかと思う。

皆さんがおっしゃる通り、このような施設を増やしていった方がいいというのはよいかと思うが、費用や人的資源の問題があるかと思うし、現在は愛大がきちんと管理をしているが、施設を造った後に、その中には、誰が入って管理するのか、良く事情もわからない変な人たちが管理にはいつてしまうのではないかという懸念もある。この場所は、近くにマンションもあり条件がよく成功していると思うが、他の場所で同じようにいくとは限らないのではないかと感じています。

【部会長】

地域のための施設であるということで、目的を明確に設定し、効果を見極めたうえで、展開していくのならいくという判断をしていくということですね。

【委員】

他の委員の言われたとおり、商店街のものでもないですし、市民のためのものという視点なら、今の状態で十分よいのではないかと思います。一方で我々商店街としては、こういう場を通じて交流したいという考えも無いわけではないので、その辺りの考え方のギャップをどうするのか。より多くの人に利用してもらおうというのであれば、大きなイベントの際に、若手が中心となって、このような話し合いの場をもち、お互いに協力していくと良いのではないかと考えています。

【部会長】

連携の仕方についてもきちんとデザインして取り組んでいくというご意見ですね。

【委員】

この場所の最初のアプローチが「ここで何ができる？」というところで、「何でもでもできることやりましょう。」というところから入っていて、つまり、KPI から入って、KGI はどれなのかという状態になっているのだと思います。方法論に偏り過ぎて、何をやっているのかわからないということになっているのではないかと思います。方法をやりながらどういう目的があるのかを探しましょうという進め方だったように思います。

そのため、逆に、どういう目的が最適なのか、対象は、お城下も含めた中心市街地全体なのか、この場所の周辺なのかというように目的を分けて考えていくと、商店街は商店街、町内会は町内会というように目的に分かれて議論していくことができるかと思います。そうすれば、民間からのまちづくりの意義もでてくると思いますし、行政からの意義だとどうしても方法に頼ってしまし、こういう新しいことをしたということに偏りがちになるのでそうでない方向からのアプローチが必要かと思っています。

【部会長】

目的の設定からする必要があるということですね。

【委員】

この場所は、都心地区よりも都心地区外の人が多いということを知り、商店街も含めたまちの活性化としては、広報も周辺にパンフレットを配るに留まらず、市民全体に発信した方がよいように思いました。せっかく作った3D 模型も、この場所を知っている人は見に来てもらえるかもしれないが、私自身この場所を前回の会議で初めて知ったぐらいなので、同じ市民がまだまだ多いのではないかと思いますので、市役所や色んな場所に設置して、交流人口を増やし、結果的に商店街も含めたまちの活性化につながればよいと思います。

【委員】

場所としては非常によいので、広報がきちんと目的にあった人たちに届くように取り組む必要があるということかと思っています。

【委員】

最後の総括のページにあるように「街の活性化」および「賑わい再生」という目的と中心市街地における居住環境の改善という目的でいうと、居住環境の改善というのは、この近隣に住んでいる方にとっては、便利になって、如実に出ているのではないかと思います。

まちの活性化は一体何をもって活性化なのかとか、先ほどからの話のように、商店街なのか地域全体なのか、観光客も含めて来街者・まちの人という考え方でいくと、この場所は色んなひとに広く開いていて、特定の人にアピールしていたわけではないので、この場所が集客コンテンツなのか、来街者のためなのか。ここは何を目的にするのかをターゲットも含めて考えていかないといけない時期にきていると思います。

他にもこのような施設を作るのであれば、そこはまた違った目的でも良いですし、まちの課題をこの場所を使って解決に取り組むのはすごく意義があったように思います。その他、この場所で、営利事業を全くできなかったのも、民間参入も視野に入れて基準を考える必要もあると思います。

【委員】

だいたいチームが育ってきているというのは、確かに緩くしている部分ででき~~れ~~ているような気もしますし、UDCMの文化になってきている面だとは思いますが、それだけでは課題を解決していくには難しいので、目的や意義を次の段階ではしっかり設定して、この場所だから人が育つといったところも両方考えて行く必要があるかと思います。

【委員】

最初、何をするとところなのかよく分からなかったのですが、色んな考え方の中で市民が育てていく場ということが少しずつ分かってきて、そういうことが意義深い場所だなと感じています。

より一層の世代間交流ができるような働きかけができたらと思いますし、そうすることで、まちづくりや災害時等の人の繋がりとして役立つことになるといった意義もあるのかと思います。

【委員】

アーバンデザインセンターそのものが良くわからなかったということもあるかと思いますが、市民が育てるという言葉は非常にしっくりくると思います。

【委員】

本日の皆さんの意見を伺って、本来のセンターの役割・目的を改めて伝えていくことが必要だと感じました。活動を盛り上げようとすればするほど、イベントを増やしてしまいがちになるので、どうしても市民の印象に残る活動がセンターの役割なんだと思われがちですが、本質は「イベントが実現できるスペース」や「トイレが使える場所」ではないので、本質を伝える仕事が難しいなと感じています。

【委員】

松山の人はイベントが好きで、イベントでまちなかを盛り上げることがまち場の人たちの目的

ではありますが、何がこのまちの資産か、何が活かせるのか、市民や人の繋がりといった部分が弱ってきていることは事実ですので、指標には落としにくい部分ではありますが、やはり目的をわかるように設定して伝えていく必要があるので、両方で取り組んでいく必要があるのかなと思います。

【委員】

松山を良くしたいという「志の縁」として色んな人がつながってイベントや勉強をするということは成果が上がっている気はします。

地域に根差したまちづくりをするときに、地域のイメージが、都心地区なのか、この周辺なのかということがなかなか整理できていなくて、誰にアプローチするのか、どういう人たちと事業するのが見えてなかったというのがあるのかと思う。

まちづくりのひとつの課題として商店街の参画が必要になってくると思いますし、商店街のためという訳ではなく、地域のためになるという考え方で連携していく必要があるかと思えます。

今までは志の人をメインに集まってきた人たちとやってきましたが、今度は地縁型の人たちとどう組んでいくか、実験的に活動を考えて一年をやっていくと、方向性も見えてくるのではないかと思いますし、目的を決めて活動をするという意見もありますが、ここでは、ゴール探しのための活動をするべきかという意見もあってよいように思います。

【委員】

総括にあるように「持続可能な運営手法を模索していたが、その確立には至っていない。」というところが、全くその通りの状態で、UDCM だけで運営していくのは限界があるかと思えますし、地域との連携ということを考えて時に、ここの運営についてみんなで関わっていくことが重要だと思います。例えば、現状では、施設での販売行為は禁止されていますが、維持管理のお金を使用者から徴収してもいいかと思えますし、次のステップにいく時に、そういった運営に関する議論を本格的に行ってもいいのではと考えています。

【部会長】

最後に事務局からご意見があればお願いいたします。

【事務局】

イベント等で賑わいを創出できているが、回遊性までには至っていないことが実験を通じて得られた課題として挙げておりますが、本社会実験の最初の段階で、松山市民の特徴として、ある限られた一つの場所に行って数時間で帰ってしまう人が多く回遊性がないことはデータ上分かっていたことで、こういう空間をきっかけに新しい目的を作るなどのチャレンジもしてきたが、色々難しいのが現状として認識できた課題であります。今後、回遊や交流など人がつながって行けるようなプログラムもみなさんと一緒に考えていけたらと思います。

【事務局】

この場所は、まちづくりを行う現場の拠点として、ここに来たらまちづくりや商店街のことが

分かるというふうなことを考えると、やはり誰でも自由に出入りできるこのような空間は必要だと考えています。多様な主体の方が活動するような場所としての機能も必要ですし、銀天街や大街道の近くにある休憩施設としての連携も重要だと考えています。

そのような中で目的をどうするかということもこれからの重要な課題であるということが本日認識できたと考えています。

元々、みんなのひろばは駐車場、多目的スペースは空き店舗でしたが、それをリノベーションして生まれ変わったので、今後、費用対効果も含め、次の場所なども先生方とともに考えていけたらと思います。

当然、店舗側のご意見として駐車場自体も必要だと思いますが、100円パーキングをこういった利用法でリノベーションしたことはなく、ひろばとして運営していくことで、一定の成果ができればと考えています。

【部会長】

最初は、よく分からないというところからスタートして、まちなかにこういう空間が実際にできたことが一つの成果でありますし、そういう場を通じていくつかのチームができてきたというのも成果の一つかと思います。

よく分からないなりにこのような関係性が築けたのは、この都市ならではの魅力なのではないかとも思います。一方で税金を使っているので、どういう効果があるのか、その効果をどう広げるか、ここでできたノウハウを松山市の中に存在する様々な事業の場でも展開し、まちなかをどう再生していくのかについても商店街の方々や地域の方々と議論を進めていく必要があらうかとも思います。本日の議論は以上とさせていただきます、事務局にお返ししたいと思います。

5. 閉会

【事務局】

本日は、年度末のお忙しい中、活発なご議論ありがとうございました。この1年半で、みなさんから専門部会でのご意見や月1回の運営委員会で地元の方にも参加いただき、様々な課題が見つかってきております。

部会長からもひと段落というお言葉がありましたが、来年度も引き続き、継承する角度は変わってくるかと思いますが、専門部会、運営委員会も開催させていただく予定ですので、引き続きご協力を戴ければと思います。それでは、第6回専門部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

以上